



(宇佐・豊岡)

大分・下林遺跡IV区 しもばやし

響のもとに寺院造営がなされたことを示している。

また、『続日本紀』には僧法蓮に関する記事があり、医術の功績によって大宝三年

1 所在地 大分県宇佐市大字山本
2 調査期間 一九九一年(平3)五月～一九九二年九月

3 発掘機関 宇佐市教育委員会
4 調査担当者 林 一也・小倉正五

5 遺跡の種類 寺院跡か

6 遺跡の年代 八世紀～九世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

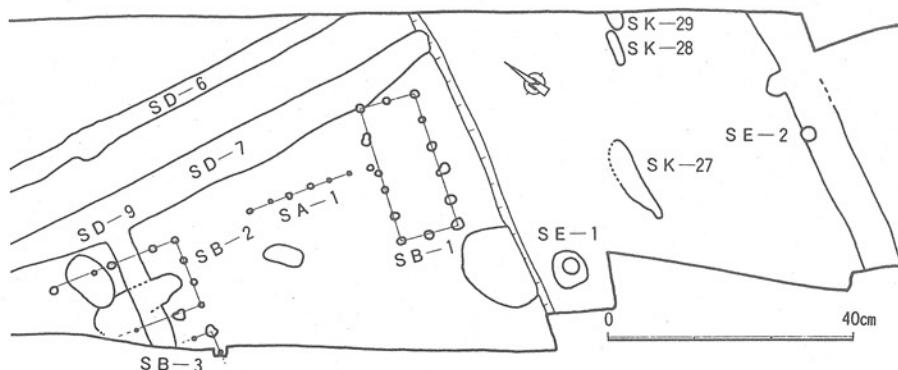
宇佐市は旧豊前国の東端部、国東半島の西側の付け根に位置する。宇佐平野の中央部を北流する駅館川の上流部は丘陵が川に迫つて

おり、狭い平坦部に九州有数の白鳳寺院である虚空蔵寺跡がある。寺跡は法隆寺式の伽藍配置をなしており、法隆寺系文様の軒平瓦、川原寺系文様の軒平瓦、それ

に南法華寺(壇坂寺)と同範と見られる博仏が出土するなど、畿内文化の強い影響への取り付け道路

(七〇三)に豊前国の野四〇町、養老五年(七二二)に一族に宇佐君の姓を賜つたことなどを伝えている。近年、これらの文献史料と考古資料の検討から、虚空蔵寺の建立者として

僧法蓮がクローズアップされている。



下林遺跡IV区古代遺構分布図

建設に伴う発掘調査が実施され、屋敷を画すると思われる中・近世

の大型の溝などとともに、掘立柱建物二棟、柵一條、井戸一基、不

整形土坑四基など奈良時代の遺構が発見された。建物は二間×五間

(五・五×二三m)など大型で、主軸方位は寺跡の講堂や中門・回廊

などの遺構とほぼ一致していた。柱穴の掘形直径は六〇～一一〇cm

と大きいが、後世の削平によつて、深さはいずれも一〇～二〇cmし

か残つていなかつた。遺物は建物群の時期を示す八世紀中～後半の

土師器、須恵器、三彩・緑釉陶器のほか、中世の大型溝を中心に軒

瓦を含む多量の瓦が出土した。これらは寺院中心部から出土するも

のと同じであり、この場所に運ばれて廃棄された可能性もある。土

師器の破片のなかには「上寺」とヘラ書きされているものが三点あ

り、同様のものが寺跡からも一点出土している。

井戸は削平された検出面から深さ五・六mもある大規模なもので、掘形の上部は円形で、下半部は一边約二mの方形をなす。その中に推定直径一・五mの丸太を縦に分割して刳り貫いた井戸枠が立てられており、高さ一mほどが遺存していた。遺物は、寺跡と同じ軒瓦をはじめとする各種の瓦や八世紀中頃～九世紀後半の土師器・須恵器が出土しており、特に井戸枠の内部からはそれらの遺物とともに曲物、横櫛やヘラ状・火焰宝珠状の木製品などが出土した。その中に木簡片と墨書のある木製容器の破片各一点が含まれていた。

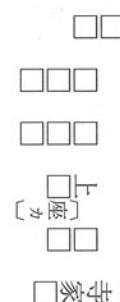
8 木簡の釈文・内容

(1) 豆一升



(214) × (23) × 3 081
(カノ他削り残リノ墨痕アリ)

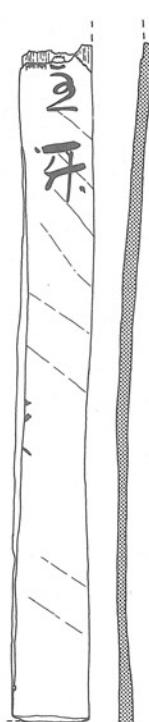
(2)

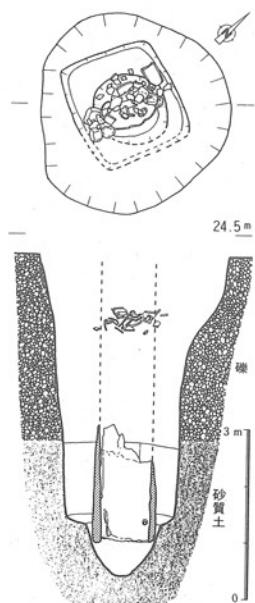


(56.5)×(125)×3 065

(1)は右下角を残す破片であり、豆一升の文字が見える。その上と左側が欠損しているが、左端にも文字の一部が見える。また、豆一升の下の空白部分にも薄い墨書のあとが認められるので、それらを削った面上に書かれていることがわかる。

(2)は折櫃のような物の蓋あるいは底板の破片と思われる薄板に、墨書が認められるもの





下林遺跡IV区SE-1実測図

である。板は隅丸方形の一部分で、縁には側板と結合させるための樺とじの皮とそれと対をなす小さな穴がある。板面には六行の文字があるが、明瞭なのは一行目の「寺家」と三行目の「上」くらいである。寺家は正倉院文書（天平宝字四年七月二三日 東大寺封戸处分勅書）などに見え、寺院や寺当局、寺院組織を意味する。また、宇佐神宮の弥勒寺関係史料にも散見する。これらの木簡が出土した井戸などは、虚空藏寺講堂跡からはやや離れている感もあるが、寺院の関係施設が存在したことは明らかである。

9 関係文献

宇佐市教育委員会『宇佐別府道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』（一九九五年）

（小倉正五）

があるが、明瞭なのは一行目の「寺家」と三行目の「上」くらいである。寺家は正倉院文書（天平宝字四年七月二三日 東大寺封戸处分勅書）などに見え、寺院や寺当局、寺院組織を意味する。また、宇佐神宮の弥勒寺関係史料にも散見する。これらの木簡が出土した井戸などは、虚空藏寺講堂跡からはやや離れている感もあるが、寺院の関係施設が存在したことは明らかである。

卷頭言

木簡研究第一七号

佐藤宗諱

一九九四年出土の木簡

概要 平城宮跡 平城京跡 左京三条一坊十二坪 平城京跡 平城京跡 左京

七条一坊十六坪 東大寺 奈良女子大学構内遺跡 高安城関連遺跡 藤原

宮跡 藤原京跡 左京七条一坊東南坪 藤原京跡 左京十一條三坊 長岡京跡

(1) 長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 平安京跡 左京四条一坊一町 平安京跡 左京

八条三坊十四町 平安京跡 右京八条二坊二町 慈照寺境内 客坊山遺跡群

大坂城跡 裴夷遺跡 見藏岡遺跡 有年原・田中遺跡 梶子北遺跡 曲金

北遺跡 伊興遺跡 錦糸町駅北口遺跡 宮町遺跡 前橋城遺跡 荒田目条

里遺跡 矢玉遺跡 山王遺跡 大坪遺跡 中尊寺境内金剛院 花立II遺跡

志羅山遺跡 福井城跡 大友西遺跡 石名田木舟遺跡(1) 石名田木舟遺跡

(2) 北高木遺跡 水橋荒町遺跡 山木戸遺跡 上郷遺跡 陰田小犬田遺跡

米子城跡 七遺跡 三田谷I遺跡 吉川元春館跡 田村遺跡群 姉川城跡

中園遺跡III区
中園遺跡III区
新潟特別研究集会の記録
一九七七年以前出土の木簡（一七）

平城京跡 左京二条二坊六坪
刻簡臘初探－漢簡形態論のために－

新潟特別研究集会の記録
一九七七年以前出土の木簡（一七）

鶴山 明

新潟特別研究集会の記録

国史跡指定答申なった八幡林官衙遺跡：小林昌二、八幡林遺跡の時代的変遷：田中 靖、古代越後平野の環境・交通・官衙：坂井秀弥、封緘木簡考

：佐藤 信、八幡林遺跡木簡と地方官衙論：平川 南、討論のまとめ
書評 鬼頭清明著『古代木簡の基礎的研究』
今津勝紀

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円